

## 2022年度 講義要綱

科 目	子ども家庭支援の心理学	必修 2単位 講義	講 師	石崎 隆嗣
授業概要	子育て中の家庭に対して適切な支援を行う素養を身につけるため、まず子どもの生涯発達という観点から初期経験の重要性や生涯を通じての発達課題などに関する発達心理学の知見を学ぶ。また家族や家庭が子どもの発達にいかなる意義や機能を有するか理解し、家庭を取り巻く現代社会の諸相を学んだ上で、多様な家庭に対して自らが支援者として主体的にどのように関わるか考える力を養成する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。</li> <li>2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。</li> <li>3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。</li> </ol>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯発達に関する心理学の基礎的な知見や、現代社会における家庭の機能や意義、家庭を取り巻く状況を説明できる。</li> <li>・発達や家庭に関する専門的な知見を踏まえて支援者として関わるための基本的な姿勢や考え方を身につける。</li> </ul>			
授業方法	講義形式にて行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション(当科目の狙いと講義の進め方、評価方法等)、生涯発達と初期経験の重要性</li> <li>2 乳幼児期の発達</li> <li>3 学童期の発達</li> <li>4 青年期の発達</li> <li>5 成人期・中年期・高齢期の発達</li> <li>6 家族・家庭の意義と機能</li> <li>7 子育て経験と親子・家族の関係</li> <li>8 子育てを取り巻く社会的状況</li> <li>9 ライフコースと仕事・子育て</li> <li>10 多様な家庭とその理解</li> <li>11 特別な配慮を要する家庭とその援助①障害を持つ子どもの保育</li> <li>12 特別な配慮を要する家庭とその援助②DV・子ども虐待</li> <li>13 子どもの生活・生育環境とその影響</li> <li>14 子どもの心の健康に関わる問題</li> <li>15 期末試験</li> </ol>			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布します。			
成績評価の方法と基準	授業への取り組み(20%)、提出物(40%)、講義内容に関する筆記試験(40%)			
担当教員の専門分野等	専門は教育学。児童発達支援及び放課後等デイサービス勤務を経験。			

## 2022年度 講義要綱

科 目	保育実践演習	必修 2単位 演習	講 師	今泉 良一
授業概要	<p>本科目は、自身が興味のあるテーマについて調査、分析、考察、発表を行う。保育者は、子どもとその家庭に関する専門家として、保育士資格取得後も常に自己研鑽に努める姿勢が求められる。本科目は、それを見据え、保育に関する様々な物事に目を向け、幅広い視野を持って主体的に関わる姿勢を養うことを目的とする。</p>			
授業目標	<p>1. 指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を</p>			
到達目標	<p>①興味のあるテーマについて調査、分析、考察、発表を通じ、保育に関する物事に主体的、意欲的に関わることができる。 ②他者に伝える力を身に付けると同時に他者の意見を取り入れながら問題解決する方法を身に付けることができる。</p>			
授業方法	<p>グループ討論や個別指導をまじえ、自身が興味のあることについて調査をし、まとめ、発表をする演習中心の授業である。</p>			
授業計画	<p>1 オリエンテーション ～保育実践演習の進め方～ 2 テーマの設定① ～関心を明確にする～ 3 テーマの設定② ～テーマを決める・関心の深め方～ 4 研究のスタイル ～調査・分析・考察の方法～ 5 中間発表に向けての個別指導 6 中間発表に向けてのレジユメの作成 7 中間報告及びディスカッション① 8 中間報告及びディスカッション② 9 中間発表を踏まえ、発表に向けた課題の点検 10 発表に向けての個別指導 11 レジユメ作成及び発表準備 12 発表① 13 発表② 14 発表③ 15 まとめ</p>			
必須テキスト	<p>特に指定なし 適宜資料を配布する</p>			
参考文献	<p>特に指定なし 適宜紹介する</p>			
成績評価の方法と基準	<p>レポート等提出物(30%) + 発表(30%) + 出席状況(40%) = 合計(100%) 提出物は期限を守ること 発表への参加は必須事項である</p>			
担当教員の専門分野等	<p>「実務経験のある教員による授業」に該当する。大学院博士後期課程において、保育史、保育思想、保育カリキュラムについて研究している。保育雑誌『pot』に記事を連載中。</p>			

## 2022年度 講義要綱

科目	子どもと遊び	選択必修 2単位 講義	講師	森 麻美
授業概要	子どもが主体となる魅力的な遊び場にするためには、子どもが自由に遊び自由に表現できる場所が必要です。そのために、保育者は子どもとどのように関わり寄り添えばよいのかを自ら考え「子どもと遊び」についての視野を広げていく。			
授業目標	実技を通し楽しく身体を動かしながら、表現力を高める。 保育現場を想定し、子どもたちと共に遊びをデザインしていく過程を知り、自ら遊びを構想する。			
到達目標	遊びが子どもたちの成長に深い関りがあることを理解し、それを見守る保育者の共感力と即興力の重要性を知る。 自ら遊びをデザインし、その説明を簡潔にできるようにする。			
授業方法	全身を楽しく動かしながら多様な遊びを体験し学ぶ(ゲームやグループワークなども行う)。 教科書とノートを活用し遊びの考察・構想をする。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション・指あそび(教科書とノートの活用方法について)</li> <li>2 リズム遊び・オニ遊び(※遊びの考察)</li> <li>3 ふれあい遊び(※遊びの考察)</li> <li>4 タオル遊び(※遊びの考察)</li> <li>5 オリジナル「あそびカード」を作ろう!</li> <li>6 カード遊び・ペアエクササイズ</li> <li>7 ダンス遊び</li> <li>8 多様な動きの引き出し方(※遊びの構想)</li> <li>9 簡単にできる創作ダンス(※遊びの構想)</li> <li>10 ボール遊び(※遊びの考察)</li> <li>11 0歳から楽しめる長縄遊び(※遊びの考察)</li> <li>12 なわ遊び(※遊びの構想)</li> <li>13 子どもの有能感について</li> <li>14 遊びの組立ポイントについて</li> <li>15 リズム遊び・まとめ</li> </ol>			
必須テキスト	元気モリモリ森麻美の運動あそび(鈴木出版)			
参考文献	授業中に適宜紹介する。			
成績評価の方法と基準	出席状況・授業への取り組み(よりよい学び場になるよう自ら考え行動する)【60%】 ノート提出【40%】			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」11年間幼稚園勤務後、キッズと親子のたいそう教室「AMINASTIC」を開業し代表を務める。現在10園(0～5歳児)で運動遊び講師を担当。また、全国で保育士研修会やイベントなどを通し、身体を動かす楽しさを伝え続けている。チャイルドカウンセラー。アスク・ミュージック所属。			

## 2022年度 講義要綱

科 目	子どもの食と栄養実習	選択必修 1単位 講義	講 師	島村 憲子
授業概要	健康な生活の基本として食生活の意義・栄養について学ぶ。 発育期の子どもに対する栄養の知識を理解する。			
授業目標	食べることは体への栄養と心への栄養となることを理解し、子どもが安心していられる場をつくることの必要を理解する。			
到達目標				
授業方法	実習を通して子どもの栄養の大切さを理解する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 子どもの健康と食生活について</li> <li>2 5大栄養素について</li> <li>3 バランス献立の作成、栄養計算</li> <li>4 乳汁期栄養について、調乳実習</li> <li>5 離乳期栄養について</li> <li>6 離乳食調理の基本(時期別形状離乳食)</li> <li>7 離乳食実習(5、6ヵ月児、7、8ヵ月児)</li> <li>8 離乳食実習(9～11ヵ月児、12～18ヵ月児)</li> <li>9 幼児期栄養について</li> <li>10 幼児食の献立作成、栄養計算</li> <li>11 作成した献立での実習</li> <li>12 保育所給食での間食実習</li> <li>13 食育について</li> <li>14 食育用の媒体物作り</li> <li>15 まとめ・試験</li> </ol>			
必須テキスト	『発育期の子どもの食生活と栄養』学建書院(1年次に使用したもの)			
参考文献	その時々参考になるものを紹介			
成績評価の方法と基準	出席、レポート、実習態度、試験による総合評価			
担当教員の専門分野等	10年間、大学の小児科医のもとで乳幼児栄養に関する研究。 その後、乳幼児・学童・成人・老人を対象にした栄養相談。			

## 2022年度 講義要綱

科 目	保育教材研究	選択必修 2単位 講義	講 師	なかむらしんいちろう
授業概要	1.これまで獲得した基礎力を活かし、多種多様な道具材料を工夫して課題制作を行う。 2.「失敗を恐れず遊びのなかで創造力を養う子どもの造形活動」を体験する。			
授業目標	現場活動を想定し、造形への理解を深め、指導力や表現力の幅を広げる。			
到達目標	1.将来の現場実践のため、教材について視野を広げる。 2.子どもの創作活動を体験し、想像力を広げる。			
授業方法	1.実技 2.座学（基本毎回課題提出）＊社会情勢や進行状況により内容や順番を適宜変更 ★オンライン授業予定			
授業計画	1 前提講義:講師挨拶、授業受講のルール、簡単なゲーム等 2 屋外活動:自然物で絵画制作(雨天変更) 3 お面づくり 4 衣装づくり:ポリ袋 5 ★イラスト練習帳:季節の絵 6 地平線絵本 7 アルミホイル:粘土のように自由な形を作る。 8 ★絵画の援助:講義:レポート提出:苦手な子への援助等 9 ★感触を楽しむ:講義:レポート提出:泥遊び等 10 フィンガーペイント 11 ボンド:ボンドに絵の具を混ぜ、形を整える 12 絵遊び:絵しりとり、絵ビンゴ 13 ★ゲーム遊び:手作り双六 14 ★レッジョの座学①:身近なもので顔を作る 15 レッジョの座学②:段ボールと自然物でフォトフレーム			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	特に指定なし			
成績評価の方法と基準	受講態度・積極性50%+目標到達度・技術習得度・課題提出数及び内容・技術習得度50%=計100% 参加・実践形式の授業の為、授業中の意欲的な取り組み、課題作成のプロセス、創意工夫、プレゼンテーション能力、作品説明能力、期日までの提出を評価			
担当教員の専門分野等	イラストレーター、絵本作家			

## 2022年度 講義要綱

科 目	保育実習Ⅱ	選択必修 2単位 外部実習	講 師	実習指導授業担当
授業概要	保育所において、90時間以上の実習を行い、現場職員の指導を受ける。			
授業目標	1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることで、保育の理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。 4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。			
到達目標	保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について、実践的に理解し、説明できる。 保育のPDCAサイクルを経験し、保育全般に対する理解を深め、自己の課題を明確化できる。			
授業方法				
授業計画	1 ①子ども及び保育者の関わりに対する視点を明確に持ち、考察する。 ②教科学習、保育実習Ⅰの経験に基づき、保育、子育て支援について理 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15			
必須テキスト				
参考文献				
成績評価の方法と基準	実習態度・対象者の理解・職員としての資質の観点に基づく、現場職員及び実習指導授業担当者教員による総合評価			
担当教員の専門分野等				

## 2022年度 講義要綱

科 目	保育実習Ⅲ	選択必修 2単位 外部実習	講 師	実習指導授業担当
授業概要	各現場の指導プログラム、計画に従う			
授業目標	1. 既習の教科や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解する。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する			
到達目標	1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能、利用者ニーズと支援の実際を理解する 2. 個人の支援計画を理解し、多様な専門職との協働、業務内容、職業倫理を理解する 3. 現場における学びを記録、考察し、自己課題を明確化できる			
授業方法	各施設職員の指導の下、現場で実務経験をする			
授業計画	1 ①現場職員の支援を観察し、活動参加を通して支援全般を知る ②関わりを通して、対象者への理解を深める 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15			
必須テキスト				
参考文献				
成績評価の方法と基準	「実習態度」「対象者の理解」「職員としての資質」の観点に基づく、現場職員及び実習指導担当教員による総合評価			
担当教員の専門分野等				

## 2022年度 講義要綱

科 目	保育実習指導Ⅱ	選択必修 1単位 講義	講 師	今泉 良一
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習Ⅰについて、グループディスカッション・個人面談・実習体験発表を通じて振り返り、評価・反省に基づいて自己課題を理解し必要な学習に取り組む。</li> <li>・保育実習Ⅱで臨む部分実習、責任実習のための準備を行う。</li> </ul>			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。</li> <li>2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。</li> <li>3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。</li> <li>4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。</li> <li>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。</li> </ol>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 責任実習、部分実習のために保育教材の製作および指導案の立案が出来る。</li> <li>2. 模擬保育の実践発表を行うことが出来る。</li> </ol>			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義、演習(グループワーク)および実技・発表</li> <li>・保育実習Ⅰの振り返りとともに模擬保育の実践、責任実習指導案を完成させるための自己学習</li> </ul>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション(保育実習Ⅱで求められるもの)</li> <li>2 保育実習Ⅰの振り返り、実習課題の検討</li> <li>3 模擬保育に向けて 指導計画立案</li> <li>4 模擬保育実践①</li> <li>5 全日指導計画立案練習</li> <li>6 模擬保育実践②</li> <li>7 主活動指導計画立案(製作活動)</li> <li>8 主活動指導計画立案(ゲーム、運動遊び)</li> <li>9 発達の様子と実習生の関わり方</li> <li>10 実習に伴う書類作成、および事務手続きの確認</li> <li>11 オリエンテーションに向けて</li> <li>12 実習日誌の具体的な記入方法</li> <li>13 考察の視点と深め方</li> <li>14 実習前後のまとめ</li> <li>15 G2・G3合同 実習わくわくタイム</li> </ol>			
必須テキスト	保育実習指導Ⅰaで使用した『千春と大吾の保育実習ストーリー』萌文書林			
参考文献	その都度紹介する。補助教材としてプリントを使用する。			
成績評価の方法と基準	出席状況および受講態度(20%)＋発表(40%)＋テスト(20%)＋提出物(20%)＝合計(100%) 無断欠席不可。提出物は期限を守ること。			
担当教員の専門分野等	『実務経験のある教員による授業』に該当する。大学院博士後期課程において、保育史、保育思想、保育カリキュラムについて研究している。保育雑誌『pot』に記事を連載中。			



## 2022年度 講義要綱

科 目	保育実習指導Ⅲ	選択必修 1単位 講義	講 師	東郷 結香
授業概要	2年次で経験した保育所実習、施設実習の振り返りと反省をし、次回の実習に向け課題を明確にして準備を整える。			
授業目標	1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。			
到達目標	①施設における保育者の役割、さらには保育者の専門性について理解する ②対象の状態を適切に理解し、対応、関わり、支援計画の立案ができるよう学ぶ ③自らの課題を明確にする			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々人の実習報告をもとにディスカッション、指導を行う</li> <li>・各施設の現場の先生をお招きした講義や、現場見学等、体験的に学ぶ</li> </ul>			
授業計画	1 オリエンテーション、授業の進め方 2 保育所実習・施設実習の振り返り① 3 保育所実習・施設実習の振り返り② 4 保育所実習・施設実習の振り返り③ 5 現場連携① 6 現場連携② 7 現場連携③ 8 現場連携④ 9 現場連携⑤ 10 支援計画、指導計画の立案① 11 支援計画、指導計画の立案② 12 実習目標指導① 13 実習目標指導② 14 実習に伴う書類の作成、事務手続きの確認 15 まとめ			
必須テキスト				
参考文献	授業内で適宜示す			
成績評価の方法と基準	出席点(30%) + 平常点(30%) + 発表等(40%) = 合計(100%)			
担当教員の専門分野等	専門は心理学です。各現場の人々や、そこで生じる事象について『解釈する』、フィールドワークが主な専門。児童養護施設や、障害児療育、心理臨床の場など様々な現場に入ってきました。			

## 2022年度 講義要綱

科 目	コミュニケーションⅢ	選択 2単位 講義	講 師	今泉 良一
授業概要	保育・福祉現場で働くことをイメージしながら、コミュニケーション方法について学び、協働の態度を養う。			
授業目標	保育・福祉現場で必要とされるコミュニケーション能力、協働の態度を身につける。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養いコミュニケーション能力を身に付けることができる。</li> <li>・働く上で求められるコミュニケーション方法について自ら考えることができる。</li> </ul>			
授業方法	コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画、就職指導等、様々な形の学習を体験する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 前期オリエンテーション</li> <li>2 コミュニケーションゲーム①</li> <li>3 コミュニケーションゲーム②</li> <li>4 ボランティア活動に向けて</li> <li>5 ボランティア活動の振り返り</li> <li>6 就職活動とコミュニケーション①</li> <li>7 就職活動とコミュニケーション②</li> <li>8 就職活動とコミュニケーション③</li> <li>9 コミュニケーションゲーム③</li> <li>10 コミュニケーションゲーム④</li> <li>11 保育実習とコミュニケーション①</li> <li>12 保育実習とコミュニケーション②</li> <li>13 保育実習とコミュニケーション③</li> <li>14 保育実習とコミュニケーション④</li> <li>15 振り返り、夏季休暇・後期の授業に向けて</li> <li>16 後期オリエンテーション</li> <li>17 グループワーク①</li> <li>18 グループワーク②</li> <li>19 学校イベントの企画・準備①</li> <li>20 学校イベントの企画・準備②</li> <li>21 働くこととコミュニケーション①</li> <li>22 働くこととコミュニケーション②</li> <li>23 働くこととコミュニケーション③</li> <li>24 働くこととコミュニケーション④</li> <li>25 働くこととコミュニケーション⑤</li> <li>26 就職フェアの振り返り①</li> <li>27 就職フェアの振り返り②</li> <li>28 卒業記念製作①</li> <li>29 卒業記念製作②</li> <li>30 振り返り、卒業後に向けて</li> </ol>			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	特に指定なし			
成績評価の方法と基準	出席状況(30%)＋授業態度(30%)＋提出物(20%)＋発表(20%)＝100%			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当する。大学院博士後期課程において、保育史、保育思想、保育カリキュラムについて研究している。保育雑誌『pot』に記事を連載中。			

## 2022年度 講義要綱

科目	ゼミナール I	選択 1単位 講義	講師	なかむらしんいちろう
授業概要	「おもちゃ」をテーマに各自が自主的に研究、制作、発表、討論等を行う。また小グループによる共同制作を行う。			
授業目標	1.テーマ(素材、年齢等)ごとに遊ぶおもちゃを作る。 2.おもちゃで遊び、特性を学ぶ。 3.施設を見学し、おもちゃに対する理解を深める。			
到達目標	1.おもちゃの意義や特徴を理解し説明できる。 2.実習や現場で役立つ手作りおもちゃを制作できる。			
授業方法	1.実技 2.座学(基本毎回課題提出) 3.施設見学 4.大型遊具等の共同制作 5.レポート作成 *社会情勢や進行状況により内容や順番を適宜変更 ★オンライン授業予定			
授業計画	1 前提講義:講師挨拶、授業受講のルール、おもちゃで遊ぶ① 2 おもちゃで遊ぶ②・幼稚園実習に向けた保育教材の制作(手作りおもちゃ)の説明 3 おもちゃの振り返り学習・保育教材の制作 4 おもちゃで遊ぶ③ 5 おもちゃの振り返り学習・保育教材の制作 ★ 6 保育教材の制作 7 おもちゃで遊ぶ④ 8 おもちゃの振り返り学習・保育教材の制作 ★ 9 保育教材の制作 *幼稚園実習予定 6/6~6/17 2週間 ★ 10 保育実習に向けた保育教材の制作 11 保育教材の制作 12 おもちゃで遊ぶ⑤ 13 保育教材の制作 ★ 14 おもちゃの振り返り学習・保育教材の制作 ★ 15 前期のまとめ・後期に向けて			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	特に指定なし			
成績評価の方法と基準	受講態度・積極性50%+目標到達度・技術習得度・課題提出数及び内容・技術習得度50%=計100% 参加・実践形式の授業の為、授業中の意欲的な取り組み、課題作成のプロセス、創意工夫、プレゼンテーション能力、作品説明能力、期日までの提出を評価			
担当教員の専門分野等	イラストレーター、絵本作家			

## 2022年度 講義要綱

科 目	ゼミナール I	選択 1単位 講義	講 師	中村 直美
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康教育や食育実践の計画立案、教材作成、発表、施設見学等を通して保健・食育分野への関心、理解を深める。</li> <li>・保育に生かす自然療法(アロマの基本・タッチケア等)を学ぶ。</li> <li>・短期大学卒業に必要なレポート課題に取り組む。</li> </ul>			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の場ですぐ実践できる保健・食育の知識を知ることができる。</li> <li>・自然療法の知識を学び、保育現場で生かすことができる。</li> <li>・期日までに短期大学へレポートの提出ができる。</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の場ですぐ実践できる保健・食育の知識を知ることができる。</li> <li>・自然療法の知識を学び、保育現場で生かすことができる。</li> <li>・期日までに短期大学へレポートの提出ができる。</li> </ul>			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義(基礎知識)→作業・準備(計画立案、教材作成等)→発表</li> <li>・自然療法の基礎知識は外部講師の方にお越し頂く予定です。</li> </ul>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 保育に生かす自然療法の基本①</li> <li>3 保育に生かす自然療法の基本②</li> <li>4 保育に生かす自然療法の基本③</li> <li>5 保育に生かす自然療法の基本④</li> <li>6 保育に生かす自然療法の基本⑤</li> <li>7 保健だよりを作ってみよう①(保健だよりって?)</li> <li>8 保健だよりを作ってみよう②(内容はどんな内容?)</li> <li>9 保健だよりを作ってみよう③(作成してみよう!)</li> <li>10 保健だよりを作ってみよう④(作成してみよう!)</li> <li>11 保健だよりを作ってみよう⑤(発表)</li> <li>12 保健だよりを作ってみよう⑥(発表)</li> <li>13 レポートに取り組む①</li> <li>14 レポートに取り組む②</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	必要時紹介、プリント等を配布予定。			
成績評価の方法と基準	出席状況、授業への取り組み等(50%)+提出物(課題)・発表(50%)=合計(100%)			
担当教員の専門分野等	看護師・保健師として長年、医療機関、保育所、保健所等で勤務。			

## 2022年度 講義要綱

科 目	ゼミナール I	選択 1単位 講義	講 師	東郷 結香
授業概要	保育士はとて職域の広い専門職です。沢山の現場で活躍ができます。保育所、学童クラブ、児童館、児童相談所、乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、障害児者入所施設、児童発達支援センター、医療的ケア児施設…等。多くの現場を知り、経験してみましょう。			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士の職域の広さを知り、様々な現場に興味を広げる</li> <li>・多くの現場に実際に行き、体験的に理解する</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの現場に出向き、支援の実際に触れて、興味を持つ</li> <li>・体験的に理解、考察し、自ら目指す支援者像を意識化する</li> </ul>			
授業方法	講義や各自発表もしますが、何よりも実際に多くの現場に見学等に出向き、様々な子ども達、支援者(保育士)の方々との出会いを通して、学んでいきます。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 たくさんの現場を知ってみよう!</li> <li>3 自分の興味ある施設を探ってみよう! ①</li> <li>4 自分の興味ある施設を探ってみよう! ②</li> <li>5 見学に向けた準備①</li> <li>6 見学に向けた準備②</li> <li>7 現場見学・体験</li> <li>8 現場見学・体験</li> <li>9 現場見学・体験</li> <li>10 現場見学・体験</li> <li>11 現場見学・体験</li> <li>12 現場から感じこと、学んだことの整理①</li> <li>13 現場から感じこと、学んだことの整理②</li> <li>14 現場から感じたこと・学んだことの発表</li> <li>15 前期のまとめ・後期に向け</li> </ol>			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	適宜、授業内で紹介			
成績評価の方法と基準	平常点(出席、授業態度、意欲/60%) + 発表(40%) = 合計(100%)			
担当教員の専門分野等	専門は心理学です。各現場の人々や、そこで生じる事象について『解釈する』、フィールドワークが主な専門。児童養護施設や、障害児療育、心理臨床の場など様々な現場に入ってきました。			

## 2022年度 講義要綱

科 目	ゼミナール I	選択 1単位 講義	講 師	佐藤 博美
授業概要	グローバル(広い視野)を持ち、未来の保育現場の多様性を理解し、それに対応できる保育士のスキルを身につける。			
授業目標	多くの体験、体感を通してグローバル(広い視野)を体得する。 様々なことばや文化への理解を深める。			
到達目標	体験学習を通して、広い視野を持つことができる。 積極的に学び、様々な考え方、文化、言葉に触れ、多様性を理解することができる。			
授業方法	いろいろな国の言葉や歌など、遊びを通して使う楽しさを知る。 ゲストスピーカーや見学を通して、海外の文化を体験する。			
授業計画	1 オリエンテーション 2 図書館見学 3 イースターを体験しよう 4 海外絵本にふれる 5 2か国語の絵本の読み聞かせにチャレンジ 6 英語で折り紙に挑戦してみよう 7 グローブシアター製作 8 グローブシアター発表 9 保育所見学 10 さまざまな国の通学事情 11 ゲストスピーカー 12 短大課題 13 短大課題 14 いろいろな国の赤ちゃんの発達 15 前期まとめ			
必須テキスト	なし			
参考文献	授業内で紹介			
成績評価の方法と基準	出欠(30%)+課題(70%)=100%			
担当教員の専門分野等	海外の保育園の勤務経験ある教員による授業			

## 2022年度 講義要綱

科 目	ゼミナールⅡ	選択 1単位 講義	講 師	なかむらしんいちろう
授業概要	「おもちゃ」をテーマに各自が自主的に研究、制作、発表、討論等を行う。また小グループによる共同制作を行う。			
授業目標	1.テーマ(素材、年齢等)ごとに遊ぶおもちゃを作る。 2.おもちゃで遊び、特性を学ぶ。 3.施設を見学し、おもちゃに対する理解を深める。			
到達目標	1.おもちゃの意義や特徴を理解し説明できる。 2.実習や現場で役立つ手作りおもちゃを制作できる。			
授業方法	1.実技 2.座学(基本毎回課題提出) 3.施設見学 4.大型遊具等の共同制作 5.レポート作成 *社会情勢や進行状況により内容や順番を適宜変更 ★オンライン授業予定			
授業計画	1 前提講義:講師挨拶、授業受講のルール、おもちゃで遊ぶ① 2 おもちゃで遊ぶ②・幼稚園実習に向けた保育教材の制作(手作りおもちゃ)の説明 3 おもちゃの振り返り学習・保育教材の制作 4 おもちゃで遊ぶ③ 5 おもちゃの振り返り学習・保育教材の制作 6 おもちゃで遊ぶ④ 7 保育教材の制作 ★ 8 おもちゃの振り返り学習・保育教材の制作 ★ 9 保育教材の制作 *幼稚園実習予定 10/17~10/28 2週間 10 保育教材の制作 ★ 11 保育教材の制作 12 保育教材の制作 13 おもちゃで遊ぶ⑤ 14 おもちゃの振り返り学習・保育教材の制作 ★ 15 後期のまとめ・将来に向けて			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	特に指定なし			
成績評価の方法と基準	受講態度・積極性50%+目標到達度・技術習得度・課題提出数及び内容・技術習得度50%=計100% 参加・実践形式の授業の為、授業中の意欲的な取り組み、課題作成のプロセス、創意工夫、プレゼンテーション能力、作品説明能力、期日までの提出を評価			
担当教員の専門分野等	イラストレーター、絵本作家			

## 2022年度 講義要綱

科 目	ゼミナールⅡ	選択 1単位 講義	講 師	中村 直美
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康教育や食育実践の計画立案、教材作成、発表、施設見学等を通して保健・食育分野への関心、理解を深める。</li> <li>・保育に生かす自然療法(アロマの基本・タッチケア等)を学ぶ。</li> </ul>			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の場ですぐ実践できる保健・食育の知識を知ることができる。</li> <li>・自然療法の知識を学び、保育現場で生かすことができる。</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の場ですぐ実践できる保健・食育の知識を知ることができる。</li> <li>・自然療法の知識を学び、保育現場で生かすことができる。</li> </ul>			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義(基礎知識)→作業・準備(計画立案、教材作成等)→発表</li> <li>・自然療法の基礎知識は外部講師の方にお越し頂く予定</li> </ul>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 保育の中の食育①</li> <li>3 保育の中の食育②(食育教材制作)</li> <li>4 保育の中の食育③ (食育教材作成)</li> <li>5 保育の中の食育④ (教材発表)</li> <li>6 保育の中の食育⑤ (教材発表)</li> <li>7 健康教育①(保育の中での健康教育って何だろう?)</li> <li>8 健康教育②(健康教育の実際～4, 5歳児向けの虫歯予防～)</li> <li>9 健康教育③(健康教育の計画立案①)</li> <li>10 健康教育④(健康教育の計画立案②)</li> <li>11 健康教育⑤(発表)</li> <li>12 健康教育⑥(発表)</li> <li>13 子どものおやつ①</li> <li>14 子どものおやつ②</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	必要時紹介、プリント等を配布予定。			
成績評価の方法と基準	出席状況、授業への取り組み等(50%)+提出物(課題)・発表(50%)=合計(100%)			
担当教員の専門分野等	看護師・保健師として長年、医療機関、保育所、保健所等で勤務。			



## 2022年度 講義要綱

科 目	ゼミナールⅡ	選択 1単位 講義	講 師	東郷 結香
授業概要	保育士はとてども職域の広い専門職です。前期に、実際に体験した現場経験をもとに、さらに興味を広げ、深めていきましょう。多くの現場を知り、それぞれの現場の「違い」や、支援の「特徴」に気づきましょう。その中で自分自身の興味や適性について、考えていきます。			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士の活躍する多くの現場を知り、各現場の「違い」や、支援の「特徴」を知る</li> <li>・様々な現場、支援に触れるなかで、自らの興味や適性について、明確化していく</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各現場の「違い」や、支援の「特徴」を知る</li> <li>・そのうえで自らの興味や適性について、明確化していく</li> </ul>			
授業方法	現場経験を引き続き積みながら、各現場についての「解釈」を進めます。発表資料等にまとめ、自らの考えを明確にして、まとめていきます。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 現場経験を広げる</li> <li>3 現場経験を広げる</li> <li>4 現場経験を深める①</li> <li>5 現場経験を深める②</li> <li>6 現場経験を深める③</li> <li>7 チャ祭に向けた発表準備①</li> <li>8 チャ祭に向けた発表準備②</li> <li>9 チャ祭に向けた発表準備③</li> <li>10 チャ祭に向けた発表準備④</li> <li>11 チャ祭の振り返り</li> <li>12 「保育者としての自分」を考える①</li> <li>13 「保育者としての自分」を考える②</li> <li>14 「保育者としての自分」を考える③</li> <li>15 1年間のまとめ</li> </ol>			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	適宜、授業内で紹介			
成績評価の方法と基準	平常点(出席、授業態度、意欲/50%) + 発表(50%) = 合計(100%)			
担当教員の専門分野等	専門は心理学です。各現場の人々や、そこで生じる事象について『解釈する』、フィールドワークが主な専門。児童養護施設や、障害児療育、心理臨床の場など様々な現場に入ってきました。			

## 2022年度 講義要綱

科 目	ゼミナールⅡ	選択 1単位 講義	講 師	佐藤 博美
授業概要	グローバル(広い視野)を持ち、未来の保育現場の多様性を理解し、それに対応できる保育士のスキルを身につける。			
授業目標	多くの体験、体感を通してグローバル(広い視野)を体得する。 様々なことばや文化への理解を深める。			
到達目標	体験学習を通して、広い視野を持つことができる。 積極的に学び、様々な考え方、文化、言葉に触れ、多様性を理解することができる。			
授業方法	いろいろな国の言葉や歌など、遊びを通して使う楽しさを知る。 ゲストスピーカーや見学を通して、海外の文化を体験する。			
授業計画	1 ゲストスピーカー 2 ハロウィンお茶会 3 アメリカの保育園 4 海外の保育紹介 5 海外の保育調べ 6 海外の保育所調べ 7 海外の保育所調べ 8 海外の保育所調べ発表 9 海外の保育発表 10 サンクスギビングとブラックフライデーについて 11 世界のゲーム大会 12 クリスマス 13 保育のSDGs 14 保育のSDGs 15 後期まとめ			
必須テキスト	なし			
参考文献	授業内で紹介します			
成績評価の方法と基準	出席(30%)+課題(70%)=100%			
担当教員の専門分野等	海外保育園勤務経験のある教員による授業			

## 2022年度 講義要綱

科 目	保育カウンセリング概論	選択 1単位 講義	講 師	橋本 千鶴
授業概要	子どもの心身の発達について学び、子どもの心理面の理解やそれに基づく適切な関わりを考える。保育実践において、信頼関係を築いたうえで、子どもと保護者に寄り添う支援、カウンセリングマインドについて学ぶ。何らかの配慮や支援を必要とする子どもへの援助について考える。			
授業目標	幼稚園教育要領等で、保育者には子どもと保護者への支援が求められている。本授業では、子どもの心身の発達と心理面の理解や、それに基づく適切な関わり方について習得する。また、子どもと保護者支援のために必要なカウンセリングの基礎知識・基本姿勢・技術などを実践的に身につける。さらに映像や事例を通して、保育者が行う子ども理解の視点や方法、支援の実際を理解する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの心身の発達についての知識と理解を基盤として、保育者としての適切な関わり方を具体的に挙げることができる。</li> <li>2. カウンセリングマインドに基づいた子どもと保護者への支援について説明できる。</li> </ol>			
授業方法	グループワーク・ディスカッション等の体験や、映像視聴・事例紹介などから実践的に学び、自分の考えをレポートにまとめる。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション・保育における「子ども理解」とは(第1章)</li> <li>2 子ども理解における発達の観点(第3章)</li> <li>3 子ども理解における保育者の姿勢とカウンセリングマインド(第4章)</li> <li>4 レポートの書き方・レポート①</li> <li>5 「子ども理解」を深めるための保育共同体(第10章)</li> <li>6 一人一人の子どもの特別なニーズの理解と援助(第8章)</li> <li>7 保護者理解と援助の基本(第9章)</li> <li>8 レポートの書き方・レポート②</li> <li>9 保育における個と集団の関係の理解と援助(第7章)</li> <li>10 保育における観察と記録の実際(第5章)</li> <li>11 記録にもとづく保育カンファレンス(第6章)</li> <li>12 子どもを取り巻く環境の理解(第2章)</li> <li>13 まとめ・本授業の試験(レポート)</li> <li>14 試験(短大)対策①</li> <li>15 試験(短大)対策②</li> </ol>			
必須テキスト	「子ども理解と援助」高嶋景子・砂上史子編著 ミネルヴァ書房			
参考文献	授業で適宜紹介します。			
成績評価の方法と基準	授業への取り組み(20%)、課題(60%)、試験(レポート)(20%)			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年にわたって小学校教員として勤務。日本カウンセリング学会認定カウンセラー。大学・短期大学等で、教育相談(カウンセリング)・言葉・言語文化表現等の授業を担当。「教師・保育者のための教育相談」(共著・萌文書林)を出版。			

## 2022年度 講義要綱

科 目	保育に生かすやさしい手芸	選択 1単位 講義	講 師	酒井 暢子、高田 ちとせ
授業概要	軍手やフェルトなどで簡単に仕上がる作品づくりを通して、糸針仕事の練習をする。作品を保育の現場で生かせるように、わらべうた、童謡、詩などに合わせた演目で演じ方や遊び方を学ぶ。			
授業目標	手縫いの基礎及び制作技術を習得する。手作りの人形を使って動かし方の基本を学び、子どもとのコミュニケーションの道具として活用できるようにする。			
到達目標	7つの作品を完成させ、制作技術を習得する。 それぞれの作品の生かし方を学び、保育活動に応用できるようになる。			
授業方法	オリジナルの材料キットを用いて作品を制作。作品の生かし方や応用のアイデアを紹介し、実技指導を行う。			
授業計画	1 「グラブ人形 指ぶた」制作① 2 「グラブ人形 指ぶた」制作②、演じ方練習 3 手縫いの基礎①、「グラブ人形 指かえる」制作① 4 「グラブ人形 指かえる」制作②、演じ方練習 5 演技練習・発表① 6 「ミトン人形 くま」制作① 7 「ミトン人形 くま」制作②、演じ方練習 8 演技練習・発表② 9 「ハンカチ人形」制作① 10 手縫いの基礎②、「ハンカチ人形」制作②、演じ方練習 11 「カップ人形 さる」制作① 12 「カップ人形 さる」制作②、演じ方練習 13 演技練習・発表③ 14 「ミトンくまのベスト」制作 15 「ひまわりブローチ」制作 応用例の紹介			
必須テキスト	特になし 授業時に資料を配布			
参考文献	『お話し会で楽しむ手ぶくろ人形』保育と人形の会/編著 児童図書館研究会/刊 『手ぶくろ人形の部屋』高田千鶴子/著 偕成社/刊			
成績評価の方法と基準	授業への取り組み・出席(45%) + 作品・発表・レポート(55%) = 合計(100%)			
担当教員の専門分野等	子どものための手作り人形など、作品の創作と演目の実践。			

## 2022年度 講義要綱

科 目	手話	選択 1単位 講義	講 師	乙川 智子
授業概要	手話を学ぶ事によって、手話の出来る保育士の養成並びにコミュニケーション能力の向上、又聴覚障害者に対する理解と対応の仕方を学ぶ			
授業目標	手話を覚え、相手に伝える楽しさ、喜びを感じ、コミュニケーション力を身に付け、又聴覚障害者の生活や福祉制度を学ぶ。			
到達目標	1, 手話を通して聴覚障害者を理解し福祉制度を説明できる。 2, 保育士になったときに覚えた手話で聴覚障害者と会話できる。			
授業方法	手話を学ぶ為にまず単語を覚え自己紹介が出来る様にして、その覚えた手話を使って聴覚障害者の方と楽しく交流学习をする。			
授業計画	1 〈技術〉手話とは 身振りとの関連性 2 〈技術〉自己紹介／〈理論〉手話の基礎知識 I 3 〈技術〉疑問文6W2H 名前・時の表現／〈理論〉手話の基礎知識 II 4 〈技術〉疑問文6W2H 家族・趣味／〈理論〉聴覚障害者の基礎知識 I 5 〈技術〉6W2H 住所／〈理論〉聴覚障害者の基礎知識 II 6 〈技術〉聴覚障害者との交流学习(1)／〈理論〉聴覚障害者の生活 I 7 〈技術〉疑問文6W2H 仕事・アルバイト先／〈理論〉聴覚障害者の生活 II 8 〈技術〉疑問文6W2H 保育園で／〈理論〉福祉制度 I 9 〈技術〉会話練習(1)／〈理論〉福祉制度 II 10 〈技術〉会話練習(2) 11 〈技術〉自己紹介のまとめ(1) 12 〈技術〉自己紹介のまとめ(2) 13 試験 14 ふりかえり、まとめ 15 聴覚障害者との交流学习(2)			
必須テキスト	東京都聴覚障害者連盟『手にことばを 初級用』			
参考文献	適宜プリントにして配布します。			
成績評価の方法と基準	授業態度(30%) + 定期試験(技術と福祉問題)(70%) = 合計(100%) 積極的な態度を評価します。			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。長年にわたって(30年以上)手話通訳並びに自治体やカルチャーセンター依頼による手話指導の多くの経験あり。			

## 2022年度 講義要綱

科 目	リズム・ダンスあそび	選択 1単位 講義	講 師	明尾 真弓
授業概要	リズムあそび、リズムダンス、リズムジャンプを実技を通じて学び、その発展としてダンス創作を行う。また、ダンスに必要な柔軟性、瞬発力など体力の向上も目指します。			
授業目標	「リズム・ダンスあそび」の楽しさや本質的な意義を受講者自らが実感し、保育に生かす力を養う。			
到達目標	授業で取り上げた既存のダンスを覚え、体を大きく使って踊れるようになる。 幼児のためのダンスがつくれるようになる。			
授業方法	ストレッチなどで体ほぐしをした後、その日の計画に沿って実習する。各自授業ノートを作ってもらい活用する予定です。			
授業計画	1 オリエンテーション 2 幼児向けのダンス① 3 幼児向けのダンス② 4 幼児向けのダンス③ 5 幼児向けのダンス④／復習とテスト 6 リズムあそび 7 リズムジャンプ① 8 リズムジャンプ② 9 リズムジャンプ③ 10 リズムジャンプ④ 11 グループ創作①／グループ決め。テーマを決める。 12 グループ創作②／テーマに合った曲を選ぶ。 13 グループ創作③／振付・練習 14 グループ創作④／振付・練習 15 期末課題／発表			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	必要に応じて授業中に紹介します。			
成績評価の方法と基準	出席状況・授業への取り組み(50%)＋発表・授業内テスト・提出物(50%)			
担当教員の専門分野等	舞踊家 舞踊教育			

## 2022年度 講義要綱

科 目	ピアノ I	選択 1単位 講義	講 師	山崎 洋子、鍋島 久美子、 杉橋 祥子、豊嶋 祐壹
授業概要	保育内容として音楽遊びを取り扱う際に、鍵盤楽器が担っている役割を理解し、子どもとの関りの中でより生き生きと楽しく指導できる技術を養う。また教育実習でも使用する季節や生活の歌等のレパートリー曲を演習し、準備する。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標	本校編「はじめての弾き歌い」を中心に、コードネームによる簡易伴奏が即興的に出来る。 大きな明るい声、はっきりした言葉で表現豊かに弾き歌いが出来る。			
授業方法	自分のスキルに合わせた課題を担当講師と検討し、現場でのレパートリーとしていつでも演奏できる曲を増やしていく。			
授業計画	1 オリエンテーション(担当講師との課題設定) 2 個人レッスン 3 個人レッスン 4 個人レッスン 5 個人レッスン 6 個人レッスン 7 個人レッスン 8 個人レッスン 9 個人レッスン 10 個人レッスン 11 個人レッスン 12 個人レッスン 13 個人レッスン 14 演奏発表の為のリハーサルと個別指導 15 演奏発表による実技試験と振り返り			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	・2年次に使用した教材・本校編『はじめての弾き歌い』			
成績評価の方法と基準	出席状況・授業態度(50%)＋実技試験(50%) 実技試験発表曲: 早めに担当講師と検討し、弾き歌い2曲(1曲はピアノ曲でもよい)を演奏する。			
担当教員の専門分野等	専任: 木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱、リミック指導。			

## 2022年度 講義要綱

科 目	ピアノⅡ	選択 1単位 講義	講 師	高橋 裕希子、浦 啓子、杉橋 祥子
授業概要	保育内容として音楽遊びを取り扱う際に、鍵盤楽器が担っている役割を理解し、子どもとの関りの中でより生き生きと楽しく指導できる技術を養う。レパートリー曲を互いの伴奏で歌ったり、ねらいに相応しい導入やまとめ等も考えて演習する。採用試験の課題対策も行う。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標	本校編「はじめての弾き歌い」を中心に、ト長調、ニ長調、ヘ長調等様々なコードネームによる簡易伴奏が即興的に出来る。 大きな明るい声、はっきりした言葉で表現豊かに弾き歌いが出来る。			
授業方法	自分のスキルに合わせた課題を担当講師と検討し、現場でのレパートリーとしていつでも演奏できる曲を増やしていく。個人レッスンとともに随時、グループでの聞き合いや歌い合いの練習を行う。			
授業計画	1 オリエンテーション(担当講師との課題設定) 2 個人レッスン 3 個人レッスン 4 個人レッスン 5 個人レッスン 6 個人レッスン 7 個人レッスン 8 個人レッスン 9 個人レッスン 10 個人レッスン 11 個人レッスン 12 個人レッスン 13 個人レッスン 14 演奏発表の為のリハーサルと個別指導 15 演奏発表による実技試験と振り返り			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	・2年次に使用した教材・本校編『はじめての弾き歌い』			
成績評価の方法と基準	出席状況・授業態度(50%)＋実技試験(50%) 実技試験発表曲: 早めに担当講師と検討し、弾き歌い2曲(1曲はピアノ曲でもよい)を演奏する。			
担当教員の専門分野等	専任: 木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱、リミック指導。			



## 2022年度 講義要綱

科 目	造形と絵画	選択 1単位 講義	講 師	目黒 祥元
授業概要	1、2年で学んだ幼児造形を基にしつつ、表現技法の枠にとらわれなくて、触れることの少ない画材や、時間をかけて取り組む課題などを実習する。			
授業目標	造形表現の力を養うため、扱う画材や技法の体験と学びを通じて、視野を広げたい。			
到達目標	初めて扱う画材や技法に対しても、発想力を発揮し、主体的に取り組めるようになる。			
授業方法				
授業計画	1 授業の進め方についての説明と準備 2 ごっこ遊びを想定したドールハウスを作る 3 ごっこ遊びを想定したドールハウスを作る 4 ごっこ遊びを想定したドールハウスを作る 5 ごっこ遊びを想定したドールハウスを作る 6 ごっこ遊びを想定したドールハウスを作る 7 醤油絵 8 絵画制作 9 墨を使ったドローイング 10 絵画制作 魚のイメージ画 11 紙版画 イメージ画を元にして 12 クレパスで紙版画を刷り壁面装飾 13 岩絵の具で指絵と線画 14 粘土で人形 15 水干絵の具で彩色して仕上げる			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	特に指定なし			
成績評価の方法と基準	筆記試験は課さない。出欠と作品の提出状況50パーセントと授業や作品への取り組み50%を目安にしての総合評価。			
担当教員の専門分野等	美術家。本稿においては資格試験の実技指導に当たる。			

## 2022年度 講義要綱

科 目	教育実習指導Ⅱ	選択 1単位 講義	講 師	鈴木 八重子
授業概要	講義・演習や実習園でのオリエンテーションを通して、幼稚園教育の基本や実習の意 方法を理解し、幼稚園教諭にふさわしい態度や心構え、記録の取り方や指導計画の立て方を学ぶ。			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分な教材研究を行い、部分実習指導計画案の立案の仕方を理解する。</li> <li>・安全面と環境構成に留意した全日指導計画案の立案の仕方を理解する。</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習での観察や記録の仕方を理解し、指導計画を立てることができる。</li> <li>・立案した指導計画を実践するための教材研究や保育技術を考えることができる。</li> </ul>			
授業方法	指導計画の立案、実践、振り返りを行う。またテキストや視聴覚教材を用いて環境構成、ねらいと教師の援助の読み取り等を行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育実習Ⅱのねらいと内容の理解</li> <li>2 教育実習目標の設定、実習関係必要書類の確認</li> <li>3 幼稚園実習Ⅱにおける実習の流れと指導</li> <li>4 主活動の指導計画案立案制作活動①</li> <li>5 主活動の指導計画案立案 制作活動②</li> <li>6 主活動の指導計画案立案 ゲーム①</li> <li>7 全日指導計画案立案①</li> <li>8 全日指導計画案立案②</li> <li>9 実習直前演習 実習中のマナー、注意事項、連絡報告方法、健康管理について</li> <li>10 実習によって得られた知識と経験を振り返る①</li> <li>11 実習によって得られた知識と経験を振り返る②</li> <li>12 教育実習について振り返りを行い、園からの評価をもとに指導を受ける①</li> <li>13 教育実習について振り返りを行い、園からの評価をもとに指導を受ける②</li> <li>14 教育実習について振り返りを行い、園からの評価をもとに指導を受ける③</li> <li>15 教育実習について振り返りを行い、園からの評価をもとに指導を受ける④</li> </ol>			
必須テキスト	『3、4、5歳児の保育ガイド 実習お任せboo』 『幼稚園教育要』			
参考文献	特に指定なし			
成績評価の方法と基準	出欠席(30%)+授業への参加姿勢(30%)+提物の内容と提出期限の遵守(40%)=合計100%			
担当教員の専門分野等	幼稚園教諭としての実務経験があり、幼稚園教諭免許状をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。			